

公開講義・第3回めのゲスト講師の山国秀幸先生は、レポートのすべてにお返事を書いてくださいました。みなさんにもお裾分けしたくなり、エッセンスをご紹介します。空色にしたところは、レポートからの引用です。

★こんにちは。先日、国際医療福祉大学大学院で公開講義をさせていただきました、映画プロデューサーの山国と申します。

私の話を聞いていただき、ありがとうございました。また、レポートも拝読しました。

レポートを拝読していて、自分が理解された気持ちになり、泣けてしまいました。

世の中には、すごい人たちが溢れています。明確な大きな目標を持って、それに挑んでいる人たちを見て、自分には何もない何も出来ない…と迷い続けてきました。(まだ試行錯誤中の身です)

でも、腐ることなく、小さな一歩を続けていけば、少しずつそれに近づいて行けることを知りました。

実は私も 30 代後半で会社員勤めを辞めて、今の看護大学に入り直しています。

どのような背景がおありだったのかは分かりませんが、とても共感します。

また、30 代後半までの会社員勤めは、今後の人生においても、絶対無駄になっていないと思います。お互い頑張りましょうね！

訪問看護師の映画は、かなり真剣に考えていました。

出会う方々の想いや言葉に影響されています。いただいたメッセージでその想いを更に強めました。今後とも、どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました！

★「ケアニン」ご覧になっていただいたのですね！ありがとうございます。

“介護”という見えないお化けに不安に駆られることなく自然体で、構えることなく…

本当にそう思います。

私自身、介護の経験者ではありません。なので、この映画を作る前までは、その「お化け」を恐れていました。でも、映画製作を通じて、様々な介護業界の方と出会い、その恐れが少し消えました。

映画をご覧になった方の中でも、「将来への不安が少し無くなりました」とアンケートに書かれている方がいます。この映画を作って良かったなあと改めて思っています。

★**生まれた時は希望に満ちているのに、人の最後ってなんて残酷なんだろう？**

これはまさに私がケアニンを作る前に思っていたことです。

自分や家族の未来への恐怖心がありました。それが映画を作る過程で、少しずつそれが消えて行きましたし、この世の中も捨てたもんじゃない…と思えるようになりました。

私にも大学生と高校生の二人の息子がいます。ケアニンを観てもらいましたが、珍しく泣いていました。

親として伝えたいことはたくさんありますが、映画を通じて何かを感じてもらえたら…と思っています。

★管理栄養士をされているのですね。

次の在宅医療の映画「ピア」に管理栄養士が登場します。

私は取材を通じて、恥ずかしながら初めて管理栄養士の仕事を理解し、その重要性を感じて、映画に取り上げることにしました。

完成しましたらぜひご覧いただき、ご意見をいただけたら嬉しいです。

★しかし人間は勝手な者で健常者は私も含めて自分は無関係と思いがちです。

私もそう思います。映画や上映会を通じて、当事者ではない人たちに少しでも考えるきっかけになれば…

と思っています。

★映画は福祉にとって、そんなに作用もあることを感じました、とても素晴らしいです。

エンタテインメント映画は、社会のツールになると感じています。

ぜひ、上映会で「ケアニン」をご覧いただけると嬉しいです。

今後も様々なご縁をいただきながら、作品を作っていくつもりです。

★訪問看護師なのですね！管理者や介護職のご経験もあるとのこと。

訪問看護師の映画は、実は真剣に考えています。

ただ、どの視点で描けばいいのか？まだ方向性が見えていません。

いろいろな立場をご経験されているとのことですので、ぜひ一度、取材させていただきたいです

★私も、微力ながら、現在考えている小企画があります。究極は、介護職は3Kと言う偏見を払拭し、魅力ある職業として自ら就きたいと思える若者が増えることを目指すものですが、その前に、地域全体で障害を他人事ではなく考えてもらう動きをしようと、現在進行形です。

素晴らしいです！

「保健師」の仕事については、次の在宅医療の映画「ピア」でも触れる予定なのですが、実は取材を通じて初めて知りました。地域の医療や福祉にとって重要な役割ですし、やれることが多いと思いました。

今考えられてる企画が、保健師のお仕事を通じての内容なのかは分かりませんが、ぜひ実現していただきたいですし、その結果を教えていただきたいです。映画はシリーズにしていきますので、反映出来るかもしれません。

★すでに、映画紹介していただいたのですね！ありがとうございます！

本当に個々一人ひとりに寄り添う介護は大規模施設でも可能なのか、

またどのように実現できるのか。私の目下の関心とも重なります。

「ケアニン2」の舞台は大型施設（特養）を想定しています。

お書きになっている疑問は、まさに私自身の疑問でもあります。

これをクリアにするために、取材や情報収集を続けて、映画に反映したいと考えています。完成しましたら、ご案内しますので、ぜひ試写でご覧になってくださいませ。

★自分も介護の経験がない状態で今この世界に参入しようとしているため、

私自身も介護の経験がない中で「ケアニン」を作りました。

介護や福祉業界の人間ではない自分が出来ることは何か？と考えながら、この映画の方向性を模索しました。

介護経験が長い方は、この映画を観て、「初心を思い出した」とおっしゃいます。

自分を客観視する視点は大切なんだと改めて思っています。

★コンプレックス脱却の点では、自分や自社のコンプレックスを把握することが、より自分等への理解を深め、同時に世の中で自分が何をなすべきか、という問いの答えに近づけてくれると、

ケアニンの企画に行き着くまでは、映画業界でキャリアがないと感じている自分のコンプレックスは欠点だと思っていました。ところが頭を切り替えるとそれが武器になるということが分かりました。

「人生、無駄なことは無いんだな」と今、思っている自分がいます。

★誰もが安心して暮らし旅立っていけるシステムが自分の住む地域で作られるためにはどうしたらよいか、

私もこれを私なりに何か出来ないか？という思いで、映画を作り、上映会を推進しています。

私も看取りの経験もなく、施設で勤めているわけではありません。

ただ、介護や福祉の当事者ではない私だから出来ることがあると考えています。

今後も様々なご縁をいただきながら、作品を作っていくつもりです。

「ピア」もぜひご覧いただき、ご意見をいただきたいです。

上映会を開催される場合は、私に出来ることがあればぜひお声がけくださいませ。

どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました！

★是非ホスピスの映画を完成させて頂きたいです。この国では、医者ですら家で死ねないと言われました。

私も「ケアニン」や次の在宅医療の映画「ピア」を通じて、今更ではありますが、この国が様々な問題を抱えていることを知りました。

私が作る映画で国や世の中を変えることは難しいかもしれませんが。ただ、今苦しんでいる人や迷っている人が、

少しだけ元気になるようなこと、また、何も考えてなかった人が少しだけ考えるようになる

ことは映画に出来るのでは…と思っています。

★「ケアニン2」を取り掛かっておられて、それが、賛否両論があるであろうけれども敢行なさるといことです。

既にプロットの段階で賛否両論になっています。

現場の職員の方々は「面白い！リアリティがある！」、理事長など上層部の方は「うちの施設はもっとちゃんとしている！」「特養が全部こんな施設だと思われたらどうするんだ！？」という反応です。

いずれにせよ、おっしゃる通り、介護をテーマにする上で、ここから逃げることは出来ないと思っています。何とか完成させるつもりです。

罪を犯した知的障害者支援に取り組んでいる人々も視野に入れていただければ幸いです。

承知しました。

勉強不足でしたので、今後アンテナを張るようにします。そのテーマをストレートに映画化すると広がりにくいので、別の手法を取る方がいい気がします。情報ありがとうございます！

★看護師をされていたとのこと。

次の映画の取材で何人かの看護師を取材させていただきました。

私が印象的だったのは、思い出深いエピソードについてお話される際、皆さんがそれぞれ涙を浮かべていたということです。

看護師と言えば、「強い女性」という印象だったのですが、実はその裏に「人を想う優しさ」が隠れているということを改めて知りました。

看護師を始め、いろんな方々の声を反映しながら、映画を作るつもりです。

元看護師として、ぜひご覧いただき、ご意見やご感想をいただきたいです。

★>既に「ケアニン」をご覧いただいていたたり、えにしの会で隣の席！になるなど、不思議なご縁を感じます。

「ケアニン」ファンから、社労士の私へのお願い…大変感動しました。

このメッセージからも、誠実で温かい方であることが伝わってきました。

また、私自身も次にやれることをスピードアップしなくては…という思いになりました。

★ご指摘の通り、私たちの映画プロデュースは、想いとビジネスのバランスが大変難しいです。

上映会をベースにしていますので、投資回収（黒字）までかなり時間がかかります。

とはいえ、実はストレスはあまりありません。

それはやはり単純ではありますが、映画作りが好きで楽しいからだと思います。

逆に、そうでないと続けられない仕事だと思います。

お母様の体調が不調だとのこと。移動など大変な状況だと思いますが、どうかご自愛くださ

いませ。

★お仕事が音楽講師ということもあり、主題歌「星降る夜に」も聴いていただけたんですね。歌手の香川裕光さんとは、何度も話し合って、あの歌詞を作りました。

「支えていたつもりが、支えられていたのは僕だった」という部分が、一番気に入っています。

★インターネットで邦画業界を調べられたとのこと。私たちの業界に興味を持っていただけたことは、大変嬉しいです。古い業界の体質に囚われず、自分にしかできない切り口で、映画プロデュースの新しいモデルを作りたいと考えています。

まだまだ試行錯誤の毎日ではありますが、常に前を向いて挑戦して行くつもりです。

★感動しました。「ケアニン」を見たことはないのですが、講義を聞いているだけで、涙が出てきました。

情熱を込めてやっていることは、その映画を見なくても、まつわるお話の中からいろんな思いが感じられて人に伝わっていくものなんだなと思いました。この作品はマーケティング、広告、内容を含め広告、内容を含めブルーオーシャンな考えでやられているので、共感も大きいんだと思います。

このメッセージを読んだだけで、私の方が嬉しくて泣けてきました。

想いや情熱だけではビジネスは成立しない、でも強い想いや情熱が無ければ映画は完成しない…

というジレンマの中で試行錯誤してきましたし、今もそれは続いています。

なので、このようなメッセージは、本当に嬉しかったです。

今後も様々なご縁をいただきながら、作品を作っていくつもりです。

